



作家
元国際線乗務員
黒木安馬

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、(株)日本成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に「成「幸」学」(講談社)、「あなたの人格以上は売れない!」(プレジデント社)、「出過ぎる杭は打ちにくい!」(サンマーク出版)、「面白くなくちゃ人生じゃない!」(ロングセラーズ)、「リセット人生・再起動マニュアル」(ワニブックス)、「小説・球磨川」(上下巻・ワニブックス)などがある。
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.3percent-club.com

21世紀だ！ —— 人生・農業リセット再出発 144

「泣こかい、飛ばかい、泣こよか、ひっ飛ばべ!」

できない子、ダメな子なんていない! どんな子供も大きな可能性を秘めている。プロゴルファー・横峯さくらの伯父で、子供たちの天性の能力を引き出す保育園の横峯吉文さんに会いに鹿児島へ行ってきた。

園児たちは運動場で白息を吐きながら元気よくトラックを走り、幼子から年長まで楽しくて仕方がない笑顔だ。背丈の2倍近い13段の跳び箱を次々に飛び越える。マット上で両手をつかない宙返りをこなす女兒たち。男児たちは上半身裸で冷たい板の間に正座し、脱いだシャツを女兒たちが畳んでいる。男児の名前が呼ばれ、レスリングが始まった。女の子は声援を送る。負けた男の子はしゃくり上げながら悔し涙をこぶしで拭いた。ゼロ歳児の教室は嬉しそうに先生とお絵描き。3~5歳児の教室はというと黒板の文章は高校の教室?と見間違ふほど。「遊戯」「衣装」「発表会」「踊る」……幼児はノートに漢字で書き取っている。分厚い国語辞典も無造作に使う。読書記録を見たら1,674冊目とあり、5歳までに漢字交じりの2,000冊を全園児が読破するという。小さな両手の指を折り曲げながら数え、「9は7足す()」など計算が並んでいる。計算練習はゲーム感覚で指を使い、次に進みたくなる仕掛けがある。自学自習の読み書きと計算は毎朝20分ずつ。10けた以上の数字が縦に10行も並んでいる珠算1級検定の練習帳も置いてある。卒園までに小学4年生レベルの教科書を修了する。先生がピアノを弾き始めると曲に合わせてピアノの合奏を始める。楽譜なしの聴音、絶対音感のみで松山千春の難しい曲を見事に演奏。新曲も2日で覚える。

横峯さんは言う。

「子供はみんな天才。教えるでなく、才能を引

き出す教育。できない子のスイッチをどうやって入れるのか、人間としてどう大人に成長させていくのか。無理にさせているわけではなく、やる気にさせて楽しめる方法。大人が勉強させるのではなく、園児が楽しむ。今の親は経験させる前から、危ないとか差別だ不平等だと能書きを垂れ、組み体操も順位付けもさせない。正義ぶって乗り込んでくるモンスターペアレンツもこの園には一人として存在しません。都会の塾すべてが凝縮され、親の力では難しい教育もやってくると東京から移住した家族もいます。片方の肺が生まれつきなくて鼻にチューブを差したままバギーでやってきた子も、チューブを外して普通の子供と同じ扱いをしました。子供はちょっとだけ難しいことをやりたがるもの。逆立ち歩行も、開園時にできたのは一人だけでしたが、僕もあんなりたい!と次々に真似して全員がやるようになったのです。島津藩の教育は、教えないで、自分で考えて調べなさいという思考力の自主訓練が基本。やる気にさせる4つのスイッチでみんな天才になります! 1は、子供たちは競争が大好きで、成長したい本能を持っている。2は、子供は真似したがる生き物。3は、子供はちょっとだけ難しいことをやりたがる。4は、子供は認められたがり。達成感を覚えて次に挑戦、できると面白いから練習すると上手になり、次の段階に行きたくなる。最後の一人ができるまで諦めない。できた瞬間にみんなで心から喜んであげる。天才は10歳までに作られるのです!」

にもかかわらずというべきか、保育料は市が定めた普通の金額だけ……。今の日本に必要な教育を見つけた気がした。素晴らしい! 鹿児島弁の「泣こかい、飛ばかい、泣こよか、ひっ飛ばべ!」は、泣くより勇気を持ってブツ飛ばしまえ!を意味する。